

千葉県社保協通信

2016年度 — No11 2017年 1月25日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉セカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

1/17 「地域医療と公立病院を守る千葉県民連絡会」が県に要請

- 医師・看護師を確保し、自治体病院と地域医療の充実を！
- 病床削減・転換でなく増床と地域格差解消を！

地域医療と公立病院を守る千葉県民連絡会（長平弘代表）は、1月17日（火）午後およそ2時間にわたり、県に対し要請行動を行いました。

第1に「地域医療構想の各医療圏域での検討・計画づくり」、第2に「保健医療計画見直しによる県立病院のあり方」、第3に「改定介護保険事業支援計画での地域包括ケア、市町村に押し付けられた介護予防事業」などを中心に懇談しました。



「医師・看護師を増やし、地域医療と介護の提供体制の充実」を要請↑

はじめに「千葉県立病院改革プラン策定」作業（平成29年3月に素案決定→4～5月パブコメ→6月には改革案）にかかわって、① 県立佐原病院の存続・充実、② 県立循環器病センターの地域医療担う内科医、整形外科医の補充 ③ 県立がんセンターでの医療事故、労基法違反事件の原因究明と、職員の増員で命と健康を優先する運営体制を ④ 東千葉メディカルセンターについては、廃止した県立東金病院の地域医療を担う機能を引き継ぐ病院として、県が事業運営に参加するよう要望しました。



できるよう県の協力・支援」と「市民要求を把握し、特に精神科外来の再開のための支援」を求めました。

つづいて、地域包括ケアと「介護予防・日常生活総合支援事業」にかかわり、千葉県民医連の加藤久美事務局長は「軽度者ほど専門職のかかわりが必要、県として市町村の実情を把握し必要な支援を行うべき。在宅医療、訪問看護の不足、在宅介護事業者も大変な中、入院日数も制限され重症な方が在宅に戻されている。病床削減・転換が進むと医療・介護難民が増えると危惧している」と訴えました。

つづいて、匝瑳市民病院労組の鈴木明美委員長は「内科、外科、整形外科医の確保のための支援について、県の医師派遣事業は現場に合わないこと、県が医師を確保し、医師不足に悩む自治体病院に派遣する制度に変更を」と求めました。

さらに「長生郡市の医療をよくする会」の後藤英輝代表は「公立長生病院への内科医、産婦人科医確保のために県の支援を」と訴えました。

「地域医療を充実させる松戸の会」の関智子さんは「新設中の国保松戸市立病院・東松戸病院は東葛地域の拠点病院であり、引き続き公設公営で継続

会の要請に対し県は「本日現場から出された内容は今後の検討課題としたい」「要請項目には文書で後日回答する」としました。

行動には、香取地域、長生郡市、匝瑳市、松戸市、山武地域の5つの「地域医療をよくする会」や県社保協など6団体、また加藤英雄県議（共産党）の31人が参加しました。

県からは野澤邦彦（健康福祉政策課、政策室副参事兼室長）はじめ、健康福祉指導課、高齢者福祉課（介護保険制度班地域包括ケア推進班など）、医療整備課から総勢20人が出席しました。

●県立佐原病院の存続と充実を求める陳情署名を知事宛に提出 ●

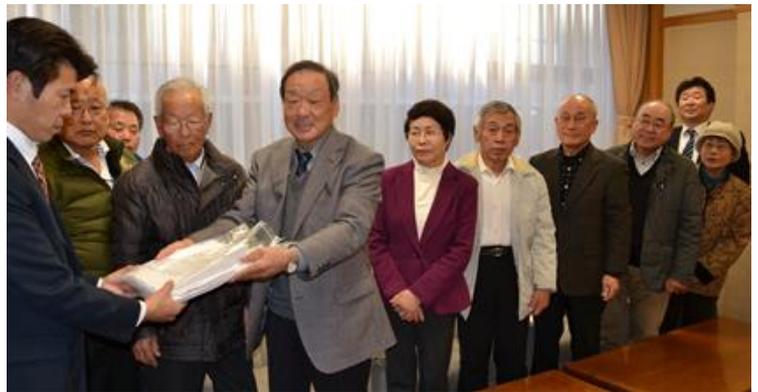
—香取地域の医療をよくする会—

17日の行動には「香取地域の医療をよくする会」のメンバー12人が参加。県庁秘書課を訪れ、この間集まった1800筆を超える「県立佐原病院の存続と充実を求める陳情署名」を提出しました。

香取市では、産科や小児科の入院、夜間の救急外来に対応できる病院がなく、地域住民が安心して医療が受けられない深刻な事態が続いています。

こうした状況の中で、「香取地域の医療の在り方に係る調査・検討委員会」により、①県立佐原病院の建て替え ②県立佐原病院と国保小見川総合病院の再編・ネットワーク化 ③新病院の整備・誘致 という報告が打ち出されました。

昨年12月には県立佐原病院の存続・充実を求めて「香取地域の医療をよくする会」などが開いた「地域医療を考えるシンポジウム」には150人を超える住民などが参加。会は「県立佐原病院の地域医療と災害拠点病院等としての役割の存続・充実」と「早急に周産期医療や小児に係る入院、夜間救急の充実を」と求めています。



住民の切実な願いを込めた署名を秘書課職員に手渡す↑

県社保協・消費税廃止県連絡会共同 JR 千葉駅頭宣伝

**これ以上、いのちは削らせない
税金の集め方・使い方変え、社会保障は国の責任で**

1月23日（月）12時～13時、千葉駅前クリスタルドームにて定例宣伝を行いました。

マイクを握って訴えると「親の世代は介護保険利用できたけど私たち世代は使えないね」と女性が署名。

別な女性も「自宅で認知症の親を介護していた。出かけられないのが困るのよ～」と切実な声が寄せられ、底冷えの中でしたが対話がすすみました。

民商・千商連、民医連、千葉労連、千葉土建、自治労連、新婦人など7団体10人が参加し、「各界連ティッシュ」と「安心の医療・介護を」チラシ約200セット配布。

新署名「これ以上、いのちを削らせない」等15筆が寄せられました。



2016年度中央社保協 全国代表者会議のお知らせ

●日時／2017年2月8日（水）
11時開会～16時30分閉会予定

●場所／衆議院第2議員会館
多目的会議室

※地下鉄 丸の内線
国会議事堂前から徒歩2分

●議題

- ①情勢とこの間の運動の到達について
- ②2017年総会までの方針案
- ③その他

※参加可能な方は
県社保協までご連絡ください。